

杉並ユネスコ協会会報

146号

2022年
6月3日

Suginami UNESCO Association News Letter

戦争は人の心の中で生まれるものであるから、
人の心の中に平和のとりでを築かなければならない

ユネスコ憲章前文より

- 心の中に平和の守りを固めよう
- すべての人間の尊厳を重んじよう
- 教育・科学・文化の発展に努めよう
- 民族間の疑惑と不信をのぞこう
- 世界を友愛と信頼のきずなで結ぼう



杉並ユネスコ協会

目次

ウクライナ～いま私たちにできること……………2
2022年度総会・南相馬スタディツアー……………4
科学教室・ユネスコ運動の日……………6

中学生クラブ・青年部部長退任挨拶……………7
イベント・活動予定……………8

ロシアによるウクライナへの攻撃は、日本との共通の価値観に対する攻撃です。毎日、女性や子どもを殺害し、学校や病院および世界的にも重要な文化遺産も破壊しています。これは、人道に対して罪を犯す残虐で恐ろしい戦争です。今、ウクライナは自国の領土を守るだけでなく、文明化された世界が基礎として持つ、全てのことを守っています。日本の皆様には、前例のないご支援をいただき大変感謝しております。善というものには、大きい小さいはありません。どのようなご支援でも私どもにとって極めて重要であり、全てのご支援に感謝申し上げます。

在日ウクライナ大使館 Dr. セルギー・コルスンスキー特命全権大使

(以前、ウクライナのユネスコ国内委員会に従事されていた大使からのメッセージ)

第2の都市ハリキウ。かつて絵画のように美しかった中庭の跡地で、同胞への応援を込めて演奏する音楽家たち。写真：Serhii Zhdan

ロシアによるウクライナ軍事侵攻を受けて。

いま私たちにできること

2022年2月24日早朝4時、大きな爆音と共に何百ものミサイルがウクライナに投下されました。その日から3か月経った現在、テレビやネットから連日流れてくる映像からは、かつての美しい歴史的建築物や豊かな緑、色とりどりの花々に溢れていた街並みから一切の色が奪われてしまいました。ウクライナの人たちの恐怖や不安、悲しみ、怒りは計り知れませんが、世界中の人々が共に心を痛めていることは確かです。

ウクライナはソ連崩壊後に独立国家として30年以上の歴史がありますが、東西南北の十字路であるがゆえに独立を維持できず、約10年ごとに大きな事変に見舞われてきました。しかし、今回の侵攻はあまりに身勝手に残虐であり、国際社会の秩序は時代と共に洗練されていくと信じていた私たちのそれは、幻想であったと思わざるを得ません。

個々の人生を破壊する権利など誰にもありません。米ブラウン大学ワトソン研究所の調査によると、9.11同時テロ後のアメリカ人戦死者は7,000人超に対し、PTSDに苦しみ自殺した現役・退役軍人は4倍以上の3万人にのぼると推計されており、多くの専門家が「国民の戦争に対する無関心さ」を問題視して警告を発しています。

想像してみてください。もし、自分の家族や友人たちが目の前で残虐に殺害されたらと。破壊された我が街の光景を。

今号では、困難な状況に置かれている方々に一日も早く大切な人達との穏やかな生活が戻ることを祈りながら、今、私たちが身近に始められることを考えます。(西野裕代)

ウクライナを巡る主な動き



映画を観る

今、全国の映画館でウクライナに関する作品が相次いで上映され、売上が寄付にあてられるケースも増えています。スマートフォンやテレビでも、動画配信サービスによる数々の作品に触れられるようになりました。ウクライナ本来の美しい光景、そこに住む人達の人柄、そして歴史を知ることが、人々に寄り添うことに繋がっていくでしょう。

「ひまわり」

第二次世界大戦によって引き裂かれた男女を描いた名作。行方不明の夫を探す妻(ソフィア・ローレン)に、ひまわり畑の下に多くの人が埋められていると告げられる。ロケ地となったウクライナのひまわり畑は、今や地雷原となっているといひます。「今、我々がウクライナで経験していることそのものです。これこそが(戦争の)本質であり、今まさにこの映画を観るべき理由なのです」(セルギー・コルスンスキー駐日大使)

「ピアノ ～ウクライナの尊厳を守る闘い」

2014年2月、ウクライナ人の尊厳を守るための闘いでありウクライナの政治・社会に大きな変化をもたらした「ユーロ・マイダン革命」。騒乱の真っ只中、極寒の独立広場

で音楽を奏でた4人の英雄達のドキュメンタリーです。彼らはやがて、平和革命の象徴となり、権威主義的支配への抵抗となっていきます。この革命によってロシアの猛反発を招き、クリミア危機、ウクライナ東部紛争、そしてウクライナへのロシア侵攻へと繋がっていきました。

「クレヴァニ 愛のトンネル」

愛のパワースポットとして世界的に有名な美しいトンネルで撮影された、切ないファンタジーロマンス(邦画)。どこまでも続く神秘的な木々のアーチと共に、キーウの中央駅やウクライナの美しい田舎の風景など、侵攻前の絵画のようなウクライナの景色は必見です。

絵本を読む



『へいわとせんそう』谷川俊太郎
ブロンズ新社

「戦争が終わって平和になるんじゃない
平和な毎日に戦争が侵入してくるんだ」
(谷川俊太郎)

杉並区に生まれ育ち90歳を迎えた著者は、戦争の「手触り」を知っているといひます。削ぎ落とされた表現から、力強いメッセージを受け取るとともに、穏やかな日常の素晴らしさが伝わってくるおすすめの一冊です。

私たちの街、杉並区の取り組みを知る

現在、日本に避難されてきたウクライナの方は1,037人(5月21日現在)。このうち43人の方は日本に知人(身元保証人)がいないため、政府が用意した一時滞在施設で受け入れ先の決定を待っています(5月14日現在)。

杉並区では杉並区交流協会と連携して、東京23区内で最も早い3月31日に「ウクライナ避難民へのワンストップ相談窓口」を開設し、国や東京都、民間財団等の支援体制との架け橋としての役割を担っています。とはいえ、受け入れ側の杉並区にとっても過去に事例のない緊急事態です。入国パターンも様々あり、政府を通じて来る方、日本にいる親族や知人を頼って来る方、知人はいないが日本を希望された方など、ケースごとの細やかな対応が必要です。窓口では、住宅確保から子育て、教育、医療、就労、日本語教育まで、生活全般にかかわる相談を受け付けています。また、区民の皆様からは、語学を活かした支援や、空き家の提供などの申



杉並区内に避難されてきた方は、現在5名。その中のラヴロワさん親子は、ウクライナでプロのチェリストとして活躍されていたことから、日本フィルハーモニー交響楽団の区役所ロビーコンサートにゲスト出演されました。

し出も届いているそうです。

家族の離散を強いられたり、祖国の情勢を案じながら悲痛な思いで過ごしている方々が安心して生活できるような環境づくりを、私たちも模索していきましょう。

なお、杉並区交流協会では、避難民の生活支援や渡航費、在留資格変更の費用などに活用する「ウクライナ緊急支援寄附金」を受け付けています。(区役所1階コミュかるショップ前の募金箱、交流協会窓口への持ち込み、口座振込等で受付)

広く世界に目を向けてみる

ロシアによるウクライナ侵攻により国外に逃れた人は、5月17日時点で631万人を超え、今後830万人に上るとの見通しがUNHCRから発表されています。一方、世界に目を広げると、2020年末の時点で約8,240万人もの人々が紛争や迫害などによって国外に逃れたり、それまでの生活を追われて国内避難生活を強いられています。一時は新型

コロナウイルスの影響によって多くの国が国境を閉鎖したことから難民の他国への移動は減少した一方で、国内避難民は増加しています。そして、難民と国内避難民を合わせた数は、この10年間増加し続けています。多様性が叫ばれる現代において、世界の情勢を正しく把握することは相手を理解する第一歩です。



杉並ユネスコ協会総会

The General Meeting of Suginami UNESCO Association in 2022

5月21日(土)
阿佐谷地域区民センター



2022年度の総会が3年ぶりの会場開催で行われました。初めに佐藤直子会長の挨拶があり、杉並区教育委員会の白石高士教育長からご挨拶をいただきました。両挨拶ではウクライナ問題が取り上げられ、戦争の悲惨な状況に心を痛めるとともに、命の大切さが強調されました。続いて来賓として、杉並区教育委員会事務局生涯学習推進課の本橋宏己課長、社会教育センターの北川次男所長、同センターユネスコ担当の豊原有希氏、山田しづか氏が紹介されました。議事では2021年度の事業・決算報告、2022年度の事業計画と予算案等が審議され、すべて承認されました。総会後は青年部による「南相馬を訪ねて」(南相馬スタディツアー報告)が行われ(詳細は下記)、盛会のうちに幕を閉じました。

募金・寄付にご協力いただきありがとうございます



書きそんじハガキ回収キャンペーン

「ユネスコ世界寺子屋運動」支援のため6,501枚のハガキを回収し、328,970円分の切手と交換することができました。また未使用切手59,914円分、クオカード、図書カード等も頂戴し、日ユ協連に寄付させていただきます。



ユネスコ協会・ウクライナ緊急募金

ウクライナ避難民を支援するための募金を行い、5月23日時点で60,000円の寄付が集まっています。募金は日ユ協連を通じてウクライナ、ルーマニア等の現地ユネスコ協会に送られ、支援物資の配布に充てられます。

参加者の感想

南相馬スタディツアーを終えて

小林 穂菜美

「南相馬」は杉並区と繋がりがあるということは知っていましたが、これまで訪れたことはありませんでした。日本ユネスコ協会連盟よりSDGs活動助成金の支援を受けることができ、オミクロン株が流行する前というタイミングで今回ツアーを実施でき、直接南相馬を感じる事ができ大変うれしく思います。

ツアーのきっかけは、当時高校1年生の青年部部員からでした。彼が、学校のプログラムで南相馬を訪れ、ぜひユネスコでも行きたいと提案してくれたことから始まりました。2020年の年末に一度ツアーの計画がされましたが、コロナ禍で断念。2021年1月にオンラインにて南相馬市総合病院院長の及川友好先生のお話を聞かせていただくことができました。震災当時の様子や被災地の現状など貴重なお話を聞き、南相馬へ行かなくてはという想いがより強くなり、今回の開催に繋がりました。

SDGsの「住み続けられるまちづくりを」(目標11)「平和と公正をすべての人に」(目標16)を中心に考え、今日の南相馬市の現状や将来の在り方を学ぶことを目的としました。そこで暮らしている人とのふれあいにも重きを置き、訪問先以外にも旅館で出会った方々など積極的にお話を聞かせていただきました。

私自身、杉並ユネスコ協会のサマーキャンプで度々福島へ行っていますが、避難区域であった地域の福島は全く違うと思いました。原発により人々は、ふるさとを離れなければいけない状況となりました。しかし、このような現状でも戻ってきている人々があります。こ

れまで原発を通して、仕事を心得て生活していた人々があります。そのような背景をもつ方々から直接お話を聞くことができたこと、復興とはと考えさせられた今日の街の様子、今でも放射能の測定があらゆる場所で行われていることなど、今回のツアーは、言葉に表すことがうまくできませんが、大きな意味があったと思っています。

井上陽水の「最後のニュース」の歌詞に、「原子力と水と石油達の為に 私達は何をしてあげられるの」「地球上のサンソ、チツソ、フロンガスは 森の花の園にどんな風を送っているの」「世界中の国の人と愛と金が 入り乱れていつか混ざりあえるの」とあります。この曲は、1989年12月にリリースされています。私が生まれる前から、人が想っている根の部分、問題となっている部分は何年たっても変わらないのだと痛感しました。

また、今回いっしょに行った大学生達からすると東日本大震災は「教科書に載っている」「授業で学ぶ」こと。今の小学生にとっては、「経験がない中で震災の恐ろしさと教訓を、東日本大震災を一例として学んでいく」ということ。2011年にすでに20代の私からするとこの感覚の違いには驚きましたし、視点が異なることからの気づきも多々ありました。

そして、オンラインの生活が浸透してきている今日ですが、直接お会いし温度を感じる事の大切さを再認識しました。全ての方とご縁に感謝しています。ありがとうございました。

東日本大震災の復興と震災から得た教訓を学び、被災地の将来について考える

1日目



双葉屋旅館での講話

宿泊先旅館の女将・小林友子さんから、震災後の避難生活や放射線への対応、チェルノブイリの人々との交流について貴重なお話を伺った。

2日目午前



南相馬市ふれあい牧場

引退した競走馬の繋養地。オーナーの門馬光清さんから相馬野馬追の歴史を伺い、祭りで実際に使用されている甲冑も見せていただいた。



福島ロボットテストフィールド

被災地の復興と産業発展を担うロボットの開発拠点。広大な施設を見学し、災害等の現場でロボットがどのように活躍するのかを学んだ。

2日目午後



南相馬市消防・防災センター

東日本大震災の当時の記録やそこから得られた教訓、災害対策・防災に関する展示を見学。職員や消防士の方との交流もあり、震災時のお話を伺った。原発事故が救助活動を困難にしたこと、時間との闘いであったこと、自身の子供もが被爆二世とされることへの不安など、印象に残るお話であった。

3日目



東京電力廃炉資料館

福島原発の事故当時の状況、廃炉に向けた取り組みについて職員の案内により見学。資料からも職員の方からも、事故への反省と教訓の意識が強く感じられた。ツアーを通じて地域住民と原発関係者との間で距離感があることを感じた一方、同じ福島に住む者同士の連帯感もわずかに垣間見られた。

※本事業は公益社団法人日本ユネスコ協会連盟「2021年度ユネスコ協会SDGs活動助成」を受けて実施しました。

青年部

南相馬スタディツアー

12月26日(日)〜28日(火)
青年部6名 理事1名 参加



2022年3月
映像配信

恐竜は実は鳥の仲間だった!?

恐竜は爬虫類に分類され、頑丈な足腰と胴の真下に伸びる後ろ足を持っていたとされています。一見、トカゲやヘビ、ワニ、カメなどと同じ仲間だと思われがちですが、実は違います。まずは「姿勢」の違いがあります。トカゲの足は胴の横に付いていて、がに股で歩きます。恐竜の足は胴の下にスラっと長く伸び、重い体重を支えたり、速く走ったりすることができます。次に「羽毛」の違いがあります。トカゲやヘビなどには羽毛がなく、体温を維持するため暖かい気候や日光を必要とします。一方、恐竜には羽毛があったとされ、そのおかげで寒冷地まで移動し生息範囲を広げることができました。最後に「家族で暮らす」ことの違いです。恐竜の化石からは、父親が卵(自分の子ども)の上に覆いかぶさっているものや、若い恐竜が卵(自分の子どもではない)の上に覆いかぶさっているものが

止まらない恐竜への愛!

富田 京一 先生
(肉食爬虫類研究所代表)

発見されています。両方とも卵を守ろうとした跡だと見られており、家族で助け合っていたことがうかがわれます。これは恐竜が複雑な社会構造を持っていたことを示しています。このように恐竜は爬虫類の中でも特殊な存在とされていますが、実は恐竜と同じような特徴を持つ動物が他にも1種類存在します。それは鳥です。胴の真下に伸びる後ろ足、羽毛、家族での生活といった特徴が恐竜と共通しています。生物学上は鳥類も爬虫類に含まれますが、恐竜と鳥は非常に近い関係にあり、現在の鳥に恐竜の名残を見ることができるのです。

講演を YouTube にて配信
https://www.youtube.com/watch?v=MChc_YErC8A



2022年3月
映像配信

スペインはいかにして世界の覇権を握ったのか!?

16世紀、スペインは西ヨーロッパに一大勢力を築き、海外にも積極的に進出します。当時スペインは、イタリアをめぐるフランスとの抗争や拡大するオスマン帝国への対応、さらにルター派との宗教対立といった課題を抱えていました。1516年に即位したスペイン国王カルロス1世(1519年には神聖ローマ皇帝カール5世として即位)は、フランスそしてオスマン帝国との領土争いを戦い抜きます。またルター派とも対立から妥協へと態度を軟化させていきます。カルロス1世の後を継ぎ1556年に即位したフェリペ2世は、イタリア戦争を終結させたのち、カトリック派の盟主として周辺地域の戦争に介入していきます。オスマン帝国を海戦で破り、ネーデルラント(現在のベルギー、オランダ、ルクセンブルク)の南部を掌握。そしてポルトガルも併合して、スペイン最大の版図を築きま

あふれる歴史の知識!

友野 智子 先生
(世界遺産アカデミー認定講師)

す。海外においても、1492年のコロンブスに始まる「新大陸」進出を通じて、中南米やアジアを中心に植民地を広げていきます。世界の西から東まで制覇したスペインは「太陽の沈まぬ帝国」として君臨するようになったのです。スペインが海外に建設した植民都市は、現在その一部が世界遺産に登録されています。また、スペイン国内にもフェリペ2世時代に建設された王宮や修道院などが世界遺産として保存されています。それらの華麗なたたずまいから、スペイン王国の栄光の歴史を感じ取ることができます。

講演を YouTube にて配信
<https://www.youtube.com/watch?v=zX5LfP03Fw8>



文/岩野智

中学生クラブ

UNESCO Junior High School Club

January

カンボジア
スタディツアー報告

1月8日(土) 旧杉並第四小学校



青年部の藤原尚孝さん(左)と久保田拓夢さん(右)による、カンボジアスタディツアーの報告が行われました。ポル・ポト時代の内戦の傷跡が残る収容所跡やキリングフィールド(殺戮の場所)の見学、世界寺子屋運動の現地視察、学校訪問での高校生との交流等、とても有意義な時間を過ごすことができました。

※2月の中学生クラブは新型コロナウイルス感染拡大のため中止になりました。

March

3年生を送る会

3月26日(土) 旧杉並第四小学校



2021年度最後の中学生クラブは3年生を送る会(修了式)。この日出席した3名の中学3年生が修了証と花束を受け取りました。青年部からは曲の演奏や活動の映像が流され、3年生へのささやかなプレゼントとなりました。コロナ禍でも継続して参加してくれた3年生の皆さん、修了を心からお祝いします!

April

開級式とユネスコ紹介

4月9日(土) 高円寺中央会議室



新年度は開級式から始まりまず、フレッシュな新入生を迎え、講師・スタッフの紹介と青年部によるユネスコの説明があり、ゲームを交えた英会話も行われました。昨年末に実施された青年部の南相馬スタディツアーの報告もあり、中学生にとってはユネスコ活動の一端に触れるよい機会となりました。

文/山田祐子 岩野智

青年部部長退任挨拶

2020-21年度部長 海老沼 輝

Hikaru EBINUMA

コロナ禍の2年間は予想外の連続でした。中学生クラブ、ユネスコ教室が中止となり例年通りのプログラムが全くできませんでした。先が見えず不安ばかりでした。しかし、その中でオンラインでの会議をしたり、コロナ禍でもできることを皆で考えたりと新しいことに挑戦するという機会を得ることができました。それは、私にとっても他の部員にとっても良い経験になったと思います。また、それらの活動を行うに当たっ

て、部員、先輩、理事の方々にサポートして頂いたことで無事2年間部長を務められたと思います。コロナ禍の2年間で部長を務めたことは良い記憶よりも大変な記憶の方が多かったです。しかし、この経験は本当に勉強になり私自身を大きく成長させてくれたと思います。2年間部長を務めることができ、コロナに負けずに仲間たちと青年部の活動ができ、本当に良かったと思います。ありがとうございました。

THANK YOU

NEWS
1

ユネスコ未来共創
プラットフォーム

文部科学省「ユネスコ未来共創プラットフォーム」のウェブサイト
に、元青年部部長の佐藤航さんの
インタビュー記事「時代と国境を
超えて繋がる杉並ユネスコ協会」
が掲載されました。

<https://unesco-sdgs.mext.go.jp/archives/3182>



NEWS
2

200 か国かるた
(オリンピック参加国かるた)

すぎなみKarutaプロジェクトから
オリンピック参加国である「200
か国かるた」を始め、3種類のか
るたを頂戴しました。
かるたの札には世界
各国の文化が日
英2か国語で紹介
されています。



会員の皆様へのお願い

会費納入

2022年度の会費を6月20日(月)
までに納入していただきますよう、
ご協力よろしくお願いたします。
振込口座は最下部をご覧ください。

一般 5,000円 青年 3,000円
大学生・高校生 2,000円

メールアドレス登録

メールでの会報の受け取りをご希
望の方は、下記、事務局のE-mailま
でアドレスをお知らせください。

第59回ユネスコ教室

2022年8月7日(日)~11日(木)



日程 8/7 13:30~15:30 ▶開級式・事前学習(高円寺中央会議室)
8/8~10(2泊3日)▶宿泊学習(国立那須甲子青少年自然の家)
8/11 13:30~15:30 ▶閉級式(高円寺中央会議室)

対象 区内在住・在学の中学生 **定員** 20名(申込順)

費用 20,000円 **申込** メールにて
(区報7月1日号をご覧ください)

ユネスコ科学教室 羊ってどんな動物?

2022年8月20日(土) 10時30分~12時



会場 高井戸地域区民センター 創作室 **講師** 原田 佐和子 氏
(科学読物研究会)

対象 小学4年生~大人(家族可) **定員** 25名

費用 1名500円 **申込** メールにて
(区報7月15日号をご覧ください)

ユネスコ運動の日 講演会 絵画展 テレジン収容所の若き画家たち

2022年9月18日(日) 14時~16時

会場 永福和泉地域区民センター 第1~3集会室 **講師** 野村 路子 氏
(テレジンを語りつぐ会代表)

定員 80名(申込順) **費用** 無料

申込 メールまたは往復ハガキにて
(区報8月15日号をご覧ください)



ユネスコ料理教室 災害時 何食べる? どう作る?

2022年10月15日(土) 10時~13時30分 高井戸地域区民センター

講師 川村 みどり 氏 定員 25名 ※区報9月15日号をご覧ください

活動予定

2022年6月 June

- 3日(金) 理事会
- 9日(木) 杉並ユネスコ合唱団練習
- 11日(土) 中学生クラブ(英会話と国際理解)
- 23日(木) 杉並ユネスコ合唱団練習

7月 July

- 1日(金) 理事会
- 9日(土) 中学生クラブ(英会話と国際理解)
- 14日(木) 杉並ユネスコ合唱団練習
- 28日(木) 杉並ユネスコ合唱団練習(予定)

8月 August

- 7日(日)~ 第59回ユネスコ教室
- 11日(木)
- 20日(土) 科学教室「羊ってどんな動物?」
- 25日(木) 杉並ユネスコ合唱団練習(予定)

9月 September

- 2日(金) 理事会
- 8日(木) 杉並ユネスコ合唱団練習(予定)
- 10日(土) 中学生クラブ(英会話と国際理解)
- 18日(日) ユネスコ運動の日 講演会・絵画展「テレジン収容所の若き画家たち」
- 22日(木) 杉並ユネスコ合唱団練習(予定)

※新型コロナウイルスの感染状況により、
日程が変更になる場合があります。

杉並ユネスコ協会会報 146号 2022年6月3日発行

発行者 杉並ユネスコ協会 会長 佐藤直子

事務局 〒167-0043 東京都杉並区上荻2-34-10 山田方
TEL 090-6105-6633 FAX 03-3399-0339 E-mail suginami@unesco.or.jp

編集 杉並ユネスコ協会広報担当

口座 ゆうちょ銀行/記号10040 番号18974381 (ゆうちょ銀行間での振込)
店名〇〇八(ゼロゼロハチ) 店番008 番号1897438 (他行からの振込)

みずほ銀行/荻窪支店 普通口座 番号4047995

ホームページ <http://suginami-unesco.org/>